

J T - P 8 3 4 . 1

計測モデルに基づく装置劣化  
要因導出法の広帯域音声  
符号化方式への拡張

Extension of the methodology for the  
derivation of equipment impairment factors  
from instrumental models  
for wideband speech codecs

第 2.0 版

2016 年 8 月 30 日制定

一般社団法人  
情報通信技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

## 目 次

<参考> .....	3
1. 標準の概要 .....	4
2. 本標準で規定する内容 .....	4

## <参考>

### 1. 国際勧告等との関係

本標準は、2015年6月に国際電気通信連合電気通信標準化部門（ITU-T）SG12会合において勧告化されたITU-T勧告P.834.1に準拠している。

### 2. 上記国際勧告等に対する追加項目等

#### 2.1 オプション選択項目

特になし

#### 2.2 ナショナルマター項目

特になし

#### 2.3 原標準に対する変更項目

特になし

### 3. 改版の履歴

版数	制定日	改版内容
第1版	—	欠番
第2版	2016年8月30日	制定

### 4. 工業所有権

本標準に関わる「工業所有権等の実施の権利に係る確認書」の提出状況は、TTCホームページで御覧になれます。

### 5. その他

#### (1) 参照する主な勧告、標準

TTC標準 : JT-G107, JT-G107.1, JT-G113, JT-G722, JT-P800, JT-834

ITU-T勧告 : G.722.1, G.722.2, P.56, P.341, P.500, P.830, P.833.1, P.862.2

#### (2) 本出版は、具体的な規定内容を含んでいない。規定はすべて準拠元であるITU-T勧告によっている。

具体的な規定内容はITU-T勧告を参照する必要がある。

### 6. 標準作成部門

網管理専門委員会

## 1. 標準の概要

本標準は、低ビットレート符号化方式に対する装置劣化要因評価値(Ie,eff)を計測モデルによって導出する方法を規定する JT-P.834 の広帯域音声符号化方式に対する拡張を規定する。本方法により導出される広帯域音声符号化方式に対する装置劣化要因評価値(Ie,wb)は、TTC 標準 JT-107.1(Wideband E-model)において、総合通話品質指標を算出する際に用いられる。

なお、本標準が規定する導出法は、いわゆる客観的な手法であり、ITU-T 勧告 P.833.1 で規定される受聴品質主観評価試験により導出される手法の補助的な位置付のものである。

本標準を用いることにより、ITU-T 勧告 G.113 Amendment 1 に掲載されていない広帯域音声符号化方式に対する装置劣化要因評価値(Ie,wb)を、客観的に求めることができる。

## 2. 本標準で規定する内容

本標準で規定する内容は下記の ITU-T 勧告による。ITU-T 勧告中で参照している標準は表 1-1 に示す標準に置き換えるものとする。

ITU-T 勧告 P.834.1 : 「Extension of the methodology for the derivation of equipment impairment factors from instrumental models for wideband speech codecs」 (06/2015)

表 1-1 本標準で置き換えて参照する標準

ITU-T 勧告中の参照先標準	本標準で置き換える標準
ITU-T 勧告 G.107(2005)	TTC 標準 JT-G107
ITU-T 勧告 G.107.1(2015)	TTC 標準 JT-G107.1
ITU-T 勧告 G.113(2001)	TTC 標準 JT-G113
ITU-T 勧告 G.722(1998)	TTC 標準 JT-G722
ITU-T 勧告 P.800(1996)	TTC 標準 JT-P800
ITU-T 勧告 P.834(2002)	TTC 標準 JT-P834